

# 国内外の産業動物衛生情報

2017年1月～12月

年月日	国内	海外
2017.12.28		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)発生 全羅南道羅州市 1件種あひる、飼養規模:23,000羽</li> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)発生 全羅南道靈岩郡 1件肉用あひる、飼養規模:35,000羽</li> </ul>
2017.12.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成28年 都道府県別農業総産出額(農林水産省) 主要農畜産物の産出額</li> <li>1位 米 2位 生乳 3位 肉用牛 4位 豚 5位 鶏卵 6位 ブロイラー 7位 トマト 8位 みかん 9位 いちご</li> <li>農業総産出額</li> <li>1位 北海道 1兆2115億円 2位 茨城県 4903億円 3位 鹿児島県 4736億円 4位 千葉県 4711億円 5位 宮崎県 3562億円</li> <li>米 1位 新潟県 1484億円</li> <li>野菜 1位 北海道 2206億円</li> <li>果実 1位 青森県 854億円</li> <li>肉用牛 1位 鹿児島県 1245億円</li> <li>乳用牛 1位 北海道 4712億円</li> <li>豚 1位 鹿児島県 723億円</li> <li>鶏卵 1位 茨城県 447億円</li> <li>ブロイラー 1位 宮崎県 730億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ベトナム 口蹄疫ワクチン国内生産に着手、2018年第2四半期に出荷へ 農業農村開発省獣医局 O型ウイルス株をワクチン生産株に選定した。同支局は、このウイルス株を国内企業3社にワクチン生産用として供与。各社はワクチン生産に着手し、2018年第2四半期に出荷できる見通し。将来は、国内需要分をカバーし、輸入に頼らない体制を整える。現在、年平均4000万～5000万本のワクチンを輸入し、費用は2000万～3000万USD(約22億7000万～34億円)。</li> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)発生 全羅南道高興郡 1件 肉用あひる 17,600羽</li> </ul>
2017.12.19		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)発生 全羅南道 1件 肉用あひる 31,300羽</li> </ul>
2017.12.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岩手県 死亡野鳥 鳥インフルエンザウイルス(H6N2亜型)検出(確定診断 12/20)</li> <li>高病原性鳥インフルエンザ 否定</li> <li>・場所 一関市(東北新幹線の高架橋上)</li> <li>・鳥種 オオハクチョウ(1羽)</li> <li>簡易検査での陽性反応は今季10例目で、島根県以外では初</li> </ul>	
2017.12.13		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)検出 京畿道龍仁(ヨンイン)市 野鳥の糞便</li> </ul>
2017.12.10		<ul style="list-style-type: none"> <li>●オランダ あひるの農場 高病原性鳥インフルエンザ(H5亜型)発生確認</li> </ul>
2017.12.4		<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス 低病原性鳥インフルエンザ(H5N3亜型)発生 ・ロット・エ・ガロンヌ県</li> </ul>
2017.12.1		<ul style="list-style-type: none"> <li>●台湾 死亡野鳥 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)検出 台南市 1件(野鳥)</li> </ul>
2017.11.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛媛県 野鳥 低病原性のウイルス(H5N3型)検出 西条市 加茂川河口 カモ、ガン類とみられる糞便 回収日 10/26(環境省定期検査 20検体) 確定日 11/29(2検体で検出) 対応 愛媛県 関係職員を集めて防疫会議開催 対策の徹底 愛媛県内で鳥インフルエンザウイルスが検出 初</li> </ul>	

	国内の今シーズンのウイルス確認は高病原性を含めて9例目。低病原性はこれが2例目	
2017.11.28		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(O型)発生 貴州省1件(牛1件)</li> <li>●中国 口蹄疫(O型)発生 新疆ウイグル自治区1件(牛、羊:農場)</li> </ul>
2017.11.27		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 野鳥 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)検出事例(3例目) 済州道済州市 野鳥の糞便</li> <li>・防疫対応:半径10km以内の地域を「野鳥獣類予察地域」と設定。半径10km以内の家さん及び飼育鳥の移動制限及び消毒(21日間)等。</li> </ul>
2017.11.21		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 野鳥 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)検出事例(2例目) 済州道済州市 野鳥の糞便</li> <li>・防疫対応:半径10km以内の地域を「野鳥獣類予察地域」と設定。半径10km以内の家さん及び飼育鳥の移動制限及び消毒(21日間)等。</li> </ul>
2017.11.19		●韓国 HAPIV(H5N6型)11/20確定 全羅北道高敞郡 肉用あひる農場1件 12,300羽
2017.11.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>●島根県 A型性鳥インフルエンザ簡易検査陽性(野鳥)陰性11/24確定</li> <li>出雲市(今シーズン9例目)</li> <li>鳥種:オオバン(1羽)</li> </ul>	
2017.11.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県下妻市 豚流行性下痢(PED)今季2例目 飼養頭数2,000頭</li> <li>哺乳豚の下痢、嘔吐、死亡・繁殖母豚の食欲不振、泌乳停止</li> </ul>	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2亜型)発生 雲林県の農場1件(家さん)
2017.11.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県下妻市 豚流行性下痢(PED)今季1例目 通算73例目 飼養頭数3,900頭</li> <li>哺乳豚の下痢(230頭)、繁殖母豚の食欲不振(22頭)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 野鳥 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)検出 全羅南道順天市 野鳥の糞便</li> <li>・防疫対応:半径10km以内の地域を「野鳥獣類予察地域」と設定。半径10km以内の家さん及び飼育鳥の移動制限及び消毒(21日間)等。</li> </ul>
2017.11.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●島根県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)(野鳥)11/20確定</li> <li>松江市(今シーズン8例目)</li> <li>鳥種:キンクロハジロ(1羽)</li> <li>●島根県 A型性鳥インフルエンザ簡易検査陽性(野鳥)陰性11/24確定</li> <li>出雲市(今シーズン7例目)</li> <li>鳥種:コブハクチョウ(1羽)</li> <li>●島根県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)(野鳥)11/2確定</li> <li>松江市(今シーズン5-6例目)</li> <li>鳥種:コブハクチョウ(2羽)</li> </ul>	
2017.11.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●島根県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)(野鳥)11/15確定</li> <li>松江市(今シーズン4例目)</li> <li>鳥種:ユリカモメ(1羽)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 野鳥 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)検出 全羅南道順天市 野鳥の糞便</li> <li>・防疫対応:半径10km以内の地域を「野鳥獣類予察地域」と設定。半径10km以内の家さん及び飼育鳥の移動制限及び消毒(21日間)等。</li> </ul>

2017.11.9	●島根県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)(野鳥)11/15 確定 松江市(今シーズン 3 例目) 鳥種: キンクロハジロ(1 羽)	
2017.11.7	●島根県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)(野鳥)11/9 確定 松江市(今シーズン 2 例目) 鳥種: キンクロハジロ(1 羽)	
2017.11.6	●島根県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)(野鳥)11/9 確定 松江市(今シーズン 1 例目) 鳥種: コブハクチョウ(1 羽)	
2017.11.5		●モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 ・発生日: 2017 年 9 月 7 日～11 月 5 日 ・発生場所: ヘンティール県の農場 7 件(牛 6 件, 牛・羊 1 件) ドルノド県の農場 4 件(牛 3 件, 牛・山羊・羊 1 件) スフバートル県の農場 3 件(牛 1 件, 牛・山羊・羊 2 件) ドルノゴビ県の農場 1 件(牛 1 件)
2017.11.4		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 台南市の農場 1 件(家きん) (参考)台湾における発生状況: 2017 年 1 月～11 月 4 日までに 186 件 (血清型: H5N2 152 件, H5N6 13 件, H5N8 21 件)
2017.11.1		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生(H5N2 亜型) 雲林県 農場 1 件(家きん)
2017.10.26		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生(H5N2 亜型) 発生場所: 雲林県 農場 1 件(家きん) ●中国 口蹄疫(O 型)発生 発生場所: 広東省 1 件(豚)
2017.10.11		●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6) 発生 安徽省馬鞍山市和県 農場 1 件(家きん)
2017.10.9		●ロシア 口蹄疫(O 型)発生 バシコルトスタン共和国ブスジャクスキー 農場 1 件(牛)
2017.10.4		●ロシア FMD 発生 4 件 O 型 バシコルトスタン共和国の 1 件(牛)
2017.9.30		●ロシア FMD 発生 4 件 O 型 バシコルトスタン共和国 3 件(牛 1 件, 羊 1 件, 山羊 1 件)
2017.9.27	●愛知県田原市 豚流行性下痢(PED) 今季 1 例目 通算 117 例目: 90 例目の再発事例(愛知県内の実発生農場数は 66 農場) 飼養頭数 2,600 頭 肥育豚 2 頭 死亡事例なし	
2017.9.24		●中国 口蹄疫(血清型: O 型)発生 貴州省 1 件(牛、山羊、豚)
2017.9.19	●鹿児島県伊佐市 豚流行性下痢(PED)の特別防疫対策地域の指定解除 伊佐市全域の「特別防疫対策地域」の指定については、地域内の発生農場が非発生農場扱い(下痢等の症状消失確認から	

	<p>8週間が経過)となったことから解除した。  ※参考  平成 27 年 10 月以降、PED の発生が確認された 20 農場のうち 18 農場は、非発生農場扱い。  【H27 年 10 月以降の発生状況】  ※ ( ) 内は、非発生農場扱いとなった農場数  ・南九州市(旧穎娃町) 1(1)農場  ・伊佐市(旧大口市) 1(1)農場  ・霧島市(旧溝辺町) 1農場  ・湧水町(旧栗野町) 1(1)農場  ・曾於市(旧財部町) 1農場  ・曾於市(旧大隅町) 4(4)農場  ・志布志市(旧松山町) 1(1)農場  ・志布志市(旧有明町) 4(4)農場  ・志布志市(旧志布志町) 2(2)農場  ・鹿屋市(旧吾平町) 1(1)農場  ・錦江町(旧大根占町) 3(3)農場  計 20(18)農場</p>	
2017.8.23		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 嘉義県の食鳥処理場 1 件(鶏 1 件)</p>
2017.8.21		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県の農場 1 件(地鶏 1 件)</p>
2017.8.15		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県 地鶏 1 件</p> <p>●韓国産鶏卵 殺虫剤成分検出 韓国農林畜産食品省 鶏卵から殺虫剤フィプロニル成分検出  8/15 午前 0 時から全養鶏場の鶏卵出荷中止、全養鶏場検査開始  また、フィプロニルとは別の殺虫剤成分も基準値以上で検出</p>
2017.8.11		<p>●フィリピン 高病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)発生 養鶏農場</p> <p>●欧州 卵から殺虫剤成分 10 カ国で廃棄や回収  欧州 食用家畜への使用が禁止された殺虫剤成分のフィプロニルが検出された卵流通  7/20 ベルギー 汚染報告 大半はオランダ産のよう。(オランダ 欧州最大の卵生産国、加工食品を含む卵の最大規模の輸出国)  オランダ食品安全当局 汚染卵廃棄呼びかけ、180 の養鶏場を一時閉鎖して調査中。  オランダ、ベルギー当局の合同捜査チーム 出荷に関係した企業などを家宅搜索し、2 人を拘束。汚染した卵が流通したドイツや英国など少なくとも 10 カ国で加工食品を含めた廃棄や回収が進む。</p>
2017.8.10		<p>●モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 ドンドゴビ県の農場 3 件(牛・山羊・羊)</p> <p>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 貴州省黔南ブイ族マオ族自治州 農場 1 件 うずら</p>
2017.8.9		<p>●4.28-8.9 モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 ヘンティー県の農場 5 件(牛 4 件, 山羊 1</p>

		件) スフバートル県の農場 3 件(牛・山羊・羊 3 件) ドルノゴビ県の農場 1 件(牛・山羊・羊 1 件)
2017.8.1		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)発生 新北市及び台北市 2 件(地鶏、食鳥処理場) ●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 亜型)発生 内モンゴル自治区通遼市の農場 1 件(家さん 1 件)
2017.7.24	●「鳥獣管理士」養成 大学 単位認定 野生鳥獣管理の資格「鳥獣管理士」認定機関の鳥獣管理技術協会 今年度から全国の大学などと連携し、養成に乗り出す。 大学や専門学校の鳥獣管理学などの授業を、資格取得に必要な単位として認定。	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 彰化県 2 件(あひる:農場)
2017.7.18	●2016 年度 牛と畜頭数 4.3%減 厚労省 2016 年度のと畜頭数 牛 前年度比 4.3%減の 104 万 8,971 頭 豚 0.8%減の 1,615 万 9,026 頭 馬 18.1%減の 9,953 頭 めん羊 0.3%増の 4,915 頭 山羊 3.6%減の 2,854 頭 2016 年度 1 頭当たりと畜料金(と畜解体料・と畜場使用料)の平均額 牛 8,558 円(前年度 9,012 円) 仔牛 4,460 円(同 4,537 円) 豚 2,105 円(同 2,234 円) 馬 8,499 円(同 8,878 円) めん羊 1,988 円(同 2,006 円)	●米国 BSE 発生 アラバマ州 11 歳牛1頭 「非定型」牛海綿状脳症(BSE)確認。市場での通常の検査で発見。当該牛は食肉処理から除外。米国で過去に確認された4件のうち、2003 年にワシントン州での1件は「定型 BSE」で、カナダから購入牛だった。
2017.7.17		●台湾、日本産牛肉の輸入再開 台湾 衛生福利部 牛海綿状脳症(BSE)発生を理由に 2001 年から禁じてきた日本産牛肉の輸入を条件付きで再開手続き開始。生後 30 カ月以下の牛で、特定危険部位を適切な管理下で取り除くことなどを求める条件案。
2017.7.13		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 高雄市 食鳥処理場 1 件(地鶏 1 件) ●6.29-7.13 台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生(H5N2 亜型)雲林県の農場 5 件(地鶏 5 件)
2017.7.6		●6.8-7.6 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 ・発生場所:屏東県, 台中市, 雲林県の農場 3 件(あひる 1 件, 鶏 1 件, 地鶏 1 件), 台北市の食鳥処理場 1 件(地鶏 1 件) ●ロシア アフリカ豚コレラ発生 オムスク州 ・動物種:豚(裏庭農場)1 件 ・感染頭数:11 頭(飼養数 27 頭, 死亡数 11 頭, 淘汰数一頭) ・感染源については不明または調査中 ・国内の移動制限, 施設等の消毒実施, 発生に応じたワクチン接種, 淘汰等



●HPAI 疫学調査全国説明会

農林水産省 高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)疫学調査チーム「平成 28 年度における HPAI 発生に係る疫学調査報告書」全国説明会開催。

【発生農場の特徴】

平成 28 年度の高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)の発生農場は、北海道から宮崎県にかけて全国に分布。

野鳥(野鳥の糞便、飼育鳥類などを含む)については、過去最大規模となる 218 例でウイルスが確認され、その分布は北海道から九州まで広範囲。発生農場では周辺に水辺のあることが有意に多かった。このため、今回の家きんにおける発生に関しては、ウイルスに感染した野鳥が農場周辺に飛来し、農場周辺の環境中のウイルス(野鳥を含む野生動物が保有するウイルスやその排せつ物に含まれるウイルス)が増加することで、家きん舎へのウイルス侵入の機会や量が増えていたと考えられた。

【ウイルスの特徴】

平成 28 年度に野鳥も含めわが国で確認されたウイルスは、遺伝子解析の結果、少なくとも 5 つの遺伝子グループに分類された。家きんでは 4 つの遺伝子グループに分類された。この遺伝子解析の結果に加え、渡り鳥の渡りの経路を踏まえると、中国にあった H5N6 亜型のウイルスが、極東ロシア北方や中国東北部から、ロシア沿海州の渡り鳥を含む野鳥群に侵入し、それら野鳥群の営巣地や中継地でまん延、さらにこの一部が、中国南部やモンゴル、ユーラシア大陸西方を由来とするウイルスとの間で遺伝子再集合を起こし、これらのウイルスが、平成 28 年度の秋の渡りの時期に、渡り鳥によって日本、韓国といった日本海を取り囲む地域(環日本海地域)に持ち込まれたと考えられた。

2017.6.29

ウイルスの病原性は、遺伝子配列および感染試験の結果から、依然として病原性は高いものの、過去のウイルスと比較して病原性が低下している可能性が考えられたが、いずれの発生事例でも、死亡羽数が増加するなどの所見が得られていることから、平成 28 年度の発生においても、死亡羽数の増加は、本病疑いの通報において有効な指標であったと考えられた。

【国内への侵入経路・侵入時期】

国内の広い地域の野鳥からウイルスが確認されたこと、農場で確認されたウイルスと近縁なウイルスが韓国や日本の渡り鳥などの野鳥でも確認されたことから、海外から人・物の移動を介してウイルスが国内に持ち込まれた可能性よりも、渡り鳥によって日本に持ち込まれた可能性が高いと考えられた。また、ウイルスは、11 月初旬までには渡り鳥により日本に侵入し、11 月中旬までには国内の広い範囲に分布していたと考えられた。

【農場・家きん舎への侵入経路・侵入時期】

今般の一連の発生事例では、ウイルスに感染した野鳥を含む野生動物やその排せつ物によって、発生農場周辺の環境中に多くのウイルスが存在していたと考えられた。このような環境の中、ウイルスの侵入経路として、

①ネズミなどの何らかの野生動物により家きん舎周辺にあったウイルスが家きん舎内に持ち込まれた可能性

②(人・車両または野鳥を含む野生動物により農場内にウイルスが持ち込まれ、)家きん舎周辺にあったウイルスが、家きん舎内に立ち入る人の手指、衣服または靴底などに付着し持ち込まれた可能性

が考えられた。

一方、感染試験の結果も踏まえると、家きん群へのウイルス侵入時期は、死亡羽数の増加が確認された日のおおよそ 3～10 日前と考えられた。

【平成 28 年度の発生におけるわが国の防疫対応】

	<p>平成 28 年度においては、韓国と同様に、わが国においても、家きん群への極めて高いウイルス侵入リスクがあったと考えられるが、わが国においては、これまでの発生経験も踏まえ、全国的な防疫水準が向上するとともに、自衛隊を含め関係機関・団体の協力によって、防疫対策が極めて有効に機能したと考えられた。</p> <p><b>【提言】</b></p> <p>平成 28 年度は、アジアのみならず、欧州の国々においても。様々な亜型のウイルスが確認されており、平成 29 年度の秋以降のわが国へのウイルス侵入リスクは高いと言わざるを得ない。また、中国においては最近、H7N9 亜型のウイルスが中国各地の家きんから確認されており、同亜型のウイルスがわが国に持ち込まれる可能性もある。</p> <p>このため、今回の疫学調査の結果に基づき、</p> <p>① 人・車両、野鳥を含む野生動物を介したウイルスの農場内および家きん舎内への侵入防止(家きん舎周辺の草刈や樹木の剪定を含む周辺環境の整備、確実な消毒や更衣等の衛生管理の徹底)</p> <p>② 水際検疫におけるウイルスの侵入防止</p> <p>③ 国内の研究体制、国際的な協力関係の強化</p> <p>④ 迅速で的確な初動対応</p> <p>について、平成 29 年度シーズン(10 月頃から翌年 5 月頃)に向け、飼養者、都道府県、国を始めとするすべての関係者が一体となって、全国的にさらに厳重な防疫体制を構築する必要がある。</p>	
2017.6.28		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)発生 屏東県の農場 1 件(あひる 1 件)</p> <p>●チェコ共和国 野生いのしし アフリカ豚コレラの発生が確認。 欧州連合日本政府代表部からの情報提供を受けて、同病の我が国への侵入防止に ※ 過去 3 年間、チェコ共和国からの豚肉等の輸入実績はない。</p>
2017.6.27		<p>●6.22-6.27 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 発生場所:屏東県, 台南市, 雲林県の農場 6 件(あひる 1 件, 七面鳥 2 件, 地鶏 2 件, がちょう 1 件)</p>
2017.6.22		<p>●米国 安全懸念でブラジル産牛肉輸入停止 米農務省 食品安全上の懸念があるとして、ブラジル産の生鮮牛肉の輸入禁止を決定。 理由 ブラジルから輸入した全食肉の検査結果 11%の生鮮牛肉に問題あり。ブラジル以外の国からの輸入品で問題があるのは 1%程度。 ブラジルでは 2017 年 3 月に食肉加工会社が衛生基準を満たさない食肉を国内外に販売していた問題が発覚。ブラジル政府は全国の工場を検査した上で、問題のあった工場に操業停止命令を出すなどの対策を打ち出していた。ブラジルは世界有数の畜産大国なだけに世界の食肉市場に影響を与える可能性がある。</p>
2017.6.19		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)発生 台南市の農場 1 件(あひる 1 件)</p>

		●6.12-6.19 台湾 HPAI(H5N2 亜型)発生 屏東県, 雲林県の農場等 2 件(あひる 1 件, 七面鳥 1 件)
2017.6.16		●中国 高病原性鳥インフルエンザ発生 (H7N9 亜型) 黒龍江省, 1 件(農場:家きん)
2017.6.15		●6.12-6.15 台湾 HPAI 発生(H5N2 亜型) 花蓮県, 彰化県, 雲林県, 高雄市, 台南市 6 件(食鳥処理場, 家きん)
2017.6.13		●韓国 高病原性鳥インフルエンザ確認 35 件発生 【発生状況】 ・全羅北道 20 件 ・済州特別自治道 6 件 ・慶尚南道 3 件 ・蔚山広域市 3 件 ・釜山広域市 2 件 ・京畿道 1 件
2017.6.12		●中国 5 月 鳥フル感染者、死亡者急増 中国国家衛生計画出生委員会 5 月に中国本土で鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型)の感染者が計 72 人確認、37 人死亡、1～5 月の感染者は計 601 人、死者は計 248 人 死者は昨年1年間の死者 63 人の約 4 倍
2017.6.8		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県の農場 1 件(地鶏 1 件) ●韓国 再拡大か 高病原性鳥インフルエンザ 警戒レベルを最高段階の「深刻」に引き上げた。 2 日、最南部の済州道のウコッケイ農場で、当該農家が地元市場で購入したヒナに異常が見つかり、H5N8 型の感染が確定。当局が流通経路を辿ったところ、中部地域の全羅南道群山郡の農家が感染疑いがあるヒナを出荷していた。 7 日、全国の家きん農家や関係者に 24 時間の移動禁止を命令。 ヒナが小規模農家に流れている可能性が高いとして、100 羽未満の家きん農家から全量買取。対象は 4 万 7000 カ所、約 70 万羽の見込み。 アヒル農場などに潜伏していたウイルスが人の移動を介してウコッケイに感染した可能性が高い。
2017.6.7		●6.3-6.7 韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)発生 慶尚南道, 蔚山広域市, 済州特別自治道, 全羅北道, 釜山広域市の農場 16 件(家きん 16 件)
2017.6.5		●3.19-6.5 中国 高病原性鳥インフルエンザ(H7N9 亜型)発生 広西チワン族自治区, 福建省, 内モンゴル自治区の農場 3 件(家きん 3 件)



2017.6.3		<p>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)発生 済州島 済州市 1 件(地鶏)          その他、疫学関連農場(済州市 2 件、全羅北道群山市 1 件、京畿道坡州市 1 件、慶尚南道梁山市 1 件、釜山市機張郡 1 件)にて H5 型を確認。</p>
2017.5.31	<p>●セシウム吸収抑えたイネ開発          農業・食品産業技術総合研究機構と岩手生物工学研究センター          土壌中の放射性セシウムの吸収を抑えるイネを開発。玄米や稲わらに残るセシウムの濃度が半減。原子力発電所事故などで汚染された地域でもコメへの蓄積を減らせる。英科学誌サイエンティフィック・リポーツ(電子版)に掲載。          東京電力福島第1原子力発電所事故では、放射性セシウムが水田を汚染し、収穫されたコメの一部から高濃度のセシウムが検出された。農研機構は新しい安全対策として提案する考えで、6月中に福島県内で苗を植えて効果を検証する。放射線の一種のイオンビームをコシヒカリの種子に当てて突然変異させた。セシウム濃度が比較的高い土壌に植え、セシウムの吸収が少ない苗を調べて、吸収を減らす遺伝子を特定した。開発したイネは味などは通常のコシヒカリと変わらず、収穫量も減らないという。交配させる品種改良により他のコシヒカリ以外の品種にも遺伝子を移すことができる。</p>	
2017.5.25		<p>●5.20-5.25 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県の農場 3 件(地鶏 3 件)</p>
2017.5.23		<p>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H7N9 亜型)発生 陝西省 榆林市 1 件(採卵鶏)</p>
2017.5.22		<p>●台湾本島と一部離島 口蹄疫「ワクチン接種清浄地域」に復帰 8 年ぶり          OIE 台湾本島と離島・澎湖、馬祖がワクチン接種下で口蹄疫が発生していない「ワクチン接種清浄地域」に認定          台湾がワクチン接種清浄地域に復帰するのは 2009 年 2 月の口蹄疫発生以来、約 8 年ぶり。          来年からはワクチン接種を停止し、2018 年に「ワクチン非接種清浄地域」への申請を目指す方針          認定証は 25 日に授与される予定          ワクチン接種清浄国または地域に復帰するには、2 年間口蹄疫が発生していないことなどが条件</p>
2017.5.17		<p>●5.6-5.17 台湾 HPAI(H5N8 亜型)発生 台北市, 新北市, 高雄市の農場 4 件(鶏 1 件, 地鶏 3 件)</p>
2017.5.15		<p>●中国 口蹄疫(O 型)発生 広東省清遠市(牛農場)1 件</p>
2017.5.13		<p>●中国 高病原性鳥インフルエンザ発生 天津市 H7N9 亜型 1 件(家さん)</p>
2017.5.12		<p>●5.10-5.12 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 屏東県, 彰化県 農場 3 件 あひる 2 件, 鶏 1 件</p>
2017.5.11	<p>●高病原性鳥インフルエンザ(HAPI) 国内侵入株 少なくとも 5 系統 4 系統は韓国ウイルスと重複</p>	

	<p>農林水産省 HPAI 疫学調査チーム第 2 回検討会 ウイルスが韓国を含む「環日本海」に広く持ち込まれたことなどが確認された。</p> <p>①発生農場が全国(発生順は青森、新潟、北海道、宮崎、熊本、岐阜、佐賀、宮城、千葉)に分散している点が、野鳥での広範囲な発生状況(22 都道府県 218 事例)と類似している</p> <p>②池や沼、川が家きん舎の近隣にある発生農場が多い傾向が確認された。</p> <p>③分離ウイルスは、韓国で確認されたウイルスと由来が同じと考えられ、少なくとも 5 系統のウイルスが国内に侵入し、このうち少なくとも 4 系統のウイルスは韓国で確認されているウイルスと重複していると考えられた</p> <p>④鶏への感染性や致死性は、過去の H5N1 亜型ウイルスより低下している可能性がある</p> <p>⑤各事例とも死亡数の増加が確認されたことから、早期通報において死亡数の増加が指標として引き続き重要と考えられる</p> <p>⑥ウイルスの国内侵入経路については、過去の事例と比較して早い時期(11 月初旬)から、渡り鳥によって広く日本に持ち込まれたとみられる。</p> <p>⑦日本全域、韓国を含む環日本海の地域に、ウイルスが広く持ち込まれたとみられる。</p> <p>⑧3 月下旬の宮城県と千葉県での発生から渡り鳥の春の渡りの時期にも、警戒が必要であることが再確認された。</p> <p>⑨家きん舎への侵入経路については発生状況や飼養衛生管理状況などから現在、特定の経路から家きん舎内にウイルスが持ち込まれたことを示す情報は得られていない</p> <p>⑩発生農場の特徴として家きん舎の近隣に池や沼、川がある場合が多い傾向が確認された。</p>	
2017.5.9	<p>●乳牛の生体輸入急増 生体輸乳用雌牛の頭数が過去 10 年で最多となった。 オーストラリアからの輸入が多く、2016 年までの 10 年間は 300～1000 頭で推移している。輸入は感染症などの懸念。</p>	
2017.5.3		●中国 高病原性鳥インフルエンザ発生 河南省 H7N9 亜型) 1 件(採卵鶏)
2017.5.2	<p>●PED長期発生農場 損失額 農研機構動物衛生研究部門解析 農研機構では、PED の臨床症状が 30 日以上確認された長期発生農場 28 農場と、30 日未満の短期発生農場 10 農場、未発生の 61 農場を比較。生産性の指標になる哺乳中死亡率、母豚1頭当たりの出荷頭数などを調べた。 PED が流行している期間、子豚の哺乳中死亡率は、未発生農場のおよそ 10%に比べ、長期発生農場は 30%ほどで、その 180 日後の出荷頭数に影響が出ている。長期発生農場の年間母豚1頭当たり出荷頭数は、未発生農場に比べ、平均 3.88 頭少なかった。 短期発生農場も、未発生農場に比べて 2.1 頭少なかった。出荷頭数の減少による経済損失は、長期発生農場で母豚1頭当たり 3,1400 円と試算。母豚 300 頭規模で約 1000 万円の損失になる。短期発生農場でも同規模で約 600 万円の損失。出荷頭数の減り方は、短期発生農場に比べ、長期発生農場の方が著しい。</p>	
2017.5.1	<p>●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 霧島市(旧溝辺町) 1農場 【H28 年 9 月以降の発生状況】 ・霧島市(旧溝辺町)1 農場 ・志布志市(旧志布志町)1 農場</p>	●4.11-5.1 台湾 HPAI 発生 H5N2 嘉義県、彰化県、屏東県、雲林県 農場 4 件(鶏 3 件、あひる 1 件)

	<p>・鹿屋市(旧吾平町)1(1)農場 計3(1)農場 ※()内は、非発生農場扱いとなった農場数</p>	
2017.4.28		●中国 高病原性鳥インフルエンザ発生 河北省 H7N9 亜型 1 件(家きん)
2017.4.24		●中国口蹄疫(A 型)発生 新疆ウイグル自治区アクス市(牛農場)
2017.4.22		●モンゴル 口蹄疫(O 型)発生ドルノゴビ県の農場 1 件(牛)
2017.4.14		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生 H5N2 雲林県の農場 1 件(地鶏 1 件) ●米国 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 アイダホ州 家きん農場
2017.4.11	<p>2016.11.6～2017.4.10 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6)確認状況</p> <p>確認数 34008 羽 アヒル 13623 羽 鶏 19615 羽 ワズラ等 80 羽 混合 10 羽 区分等数 3,787 万羽 野鳥 52(13)件 ヒナ(1558)</p> <p>輸出</p> <p>北が暴行</p> <p>国内</p> <p>野鳥等 22都道府県 218件 鶏・アヒル 野鳥 飼育鳥 翼使・環境</p>	●モンゴル 口蹄疫(O 型)発生・発生場所: スフバートル県(牛農場)1 件
2017.4.7		●香港 高病原性鳥インフルエンザが発生 H5N6 亜型 九龍 Argyle Street 公園(コウラン 1 羽)
2017.4.6		●3.31-4.6 台湾 HPAI 発生 H5N2 雲林県, 嘉義県 7 件(地鶏 6 件, ガチョウ 1 件), 高雄市食鳥処理場 1 件(地鶏 1 件)
2017.4.3		●3.31-4.3 モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 ドルノド県の農場 2 件(牛)
2017.4.2		●3.29-4.2 モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 ドルノゴビ県の農場 2 件(牛・山羊・羊)
2017.4.1	<p>●農水省 新たに動物検疫所北海道・東北支所と四国出張所設置 北海道・東北支所は新千歳空港に所在し、仙台空港出張所、胆振分室及び函館空港分室とともに、北海道・東北地区を担当。小松島出張所と高松空港分室については、四国出張所となり、神戸支所に所属。</p>	●3.23-4.1 台湾 鳥フル発生 H5N2 雲林県, 嘉義県, 彰化県, 台南市, 南投県の農場 9 件, 新北市の食鳥処理場 1 件 地鶏 7 件, あひる 2 件, 鶏 1 件
2017.3.30		●2.2-3.30 モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 スフバートル県の農場 6 件(牛・山羊・羊)
2017.3.27		●米国 低病原性鳥インフルエンザ発生 (H7N 亜型)ジョージア州 肉用種鶏農場 18,000 羽淘汰
2017.3.26		●ブラジル 食肉不正 業界損失 145 億円超 大手食肉加工業者と政府検査官ら賄賂 衛生基準に満たない肉や加工品を国内外に販売した事件 輸入規制等によるブラジルの関連業者の損失は計 1 億 3 千万ドル(約 145 億円)超

<p>2017.3.25</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農林水産省 飼養衛生管理基準改正 消費・安全局「飼養衛生管理基準」を5年ぶりに改正。 全畜種で新たに 「家畜の死体や排せつ物の適切な取り扱い」が盛り込まれ、 パンフレットやQ&amp;Aで 「家畜が死亡した際は、処理するまでの間、野生動物に荒ら されないように保管しましょう」 「死亡家畜を処理するまでの間、シートをかぶせたり、蓋付き の専用容器に入れるなど、野生動物が接触しないように管理し ましょう」 「家畜の死体や排せつ物を移動させる場合には、周辺を汚さ ないようにしましょう」 「周囲を汚さないために、移動(輸送)に際してトラックの荷台を シートで覆う、荷台のあおりより低く積む、液状物は専用車両で 運搬するなど、荷台から落ちないようにしましょう」 と説明している。 その他、豚・いのししで、飼料中に生肉が含まれる場合の加熱 処理規定が追加。</li> <li>●農林水産省動物検疫所 渡航者持込み家禽肉から鳥インフル エンザウイルス検出 中国、台湾、ベトナムからの渡航者持込未加熱家禽肉から鳥イン フルエンザウイルスが検出。 畜産物を国内に持ち込む渡航者には、検査証明書を提出する などの義務があるが、実際にはなかなか正直に申告されない 実態がある。外国人観光客数が急増する中、動検は限られた 人員の中で、探知犬や税関などと協力し、発見した輸入禁止 の生肉などを、所持者に放棄を求め没収している状況にある。 没収品は従来は焼却処分していたが、近年はアジア各国から 日本への観光客が急増する中、AIや口蹄疫などの発生源から 特に短い渡航時間で来日する場合、病原体が生きのまま国内 に持ち込まれる懸念があることから、動検では一昨年6月から、 没収した手荷物のウイルス検査を始めたもの。ウイルス検査 の対象は、没収した家禽肉などのうち、加熱が明らかに全く されていないものとしている。 2015年6月から2016年3月までに中国のアヒル肉から計4 株、鶏肉から計3株、台湾の鶏肉から1株 2016年4月から6月までに中国のアヒル肉から1株 2016年7月から9月まで中国の鶏肉から1株 2016年10月から12月まではベトナムの鶏肉から2株が検 出。 これらの国々では、生鳥市場などで生きた家禽を買って処理す る習慣が残っている。また、AIワクチンの使用で臨床症状がみ られなかったり、 低病原性鳥インフルエンザ(H7N9 亜型)のまん延が報告されて いる中国では、2017年1~2月だけで家禽類に接触したとみら れる140人が死亡。</li> </ul>	
<p>2017.3.23</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 オーエスキー病発生 かかすみがうら市 ワクチン未接種清浄農場 症状 哺乳豚の神経症状や死亡</li> <li>●千葉県 高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜確認 遺伝子検 査結果 H5亜型(3/24) 防疫完了(3/27) 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 型)確認(3/25) ・所在地:千葉県旭市 ・飼養状況:採卵鶏(約 68,000 羽) ・21~23 日 118 羽死亡 一部簡易検査陽性反応</li> <li>●宮城県 高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜確認 遺伝子検 査結果 H5亜型(3/24) 防疫完了(3/27) 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 型)確認(3/25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(O 型)発生 広東省の農場1 件(豚)</li> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生 (H5N8 亜型) 鶏 1 戸 台南市の農場 1 件 (鶏)</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地:宮城県栗原市</li> <li>・飼養状況:採卵鶏(約 220,000 羽)</li> <li>・21～23 日計 96 羽死亡 簡易検査6羽で陽性反応</li> </ul> <p>現地調査の結果(3/31)  発生鶏舎で小型の野生動物が侵入可能な隙間を確認。発生鶏舎はウインドレスと呼ばれる窓のない構造。鶏の糞はベルトコンベヤーで外に運ばれる仕組みだが、コンベヤーが通る壁の部分に三角形の隙間が認められた。ネズミなどの野生動物が侵入できるほどの大きさ。調査時に鶏舎内でネズミなどの糞が確認されたが、養鶏場ではネズミを見かけた場合は殺鼠剤を設置するなどの対策を取っていた。  鶏舎から半径百数十メートル内で、ため池が 6 カ所にあり、合計 20～30 羽のカモ類が確認された。</p>	
2017.3.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 18 例目 PED 発生 石岡市 飼養頭数:約 500 頭 症状:繁殖豚のおう吐・下痢・食欲不振</li> <li>●厚労省 ブラジルから輸入保留指示(食肉不正発覚) 厚生労働省 在日ブラジル大使館を通じて情報収集中。全国の検疫所に対し、問題の業者から輸入届け出があった場合は手続きを保留するよう指示。詳細な情報が入り次第、対象を限定したうえで輸入規制も検討。 ブラジルで食肉不正問題が表面化した。食肉加工業者が政府の検査官に賄賂を渡し、化学薬品を使って賞味期限をごまかした衛生基準に満たない食肉が認可され、国内外で流通していた疑い。 2015 年に日本が輸入した鶏肉のうちブラジル産は全体の 77%。捜査を受けた 21 工場のうち 1 工場からは日本への鶏肉の輸出実績あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブラジル 食肉不正発覚 厚労省、輸入保留を指示 ブラジルで食肉不正問題が表面化した。食肉加工業者が政府の検査官に賄賂を渡し、化学薬品を使って賞味期限をごまかした衛生基準に満たない食肉が認可され、国内外で流通していた疑い。ブラジルは世界 150 カ国以上に食肉を輸出。不正に検査された食肉が輸出された可能性のある EU、中国、チリなどは一部製品の輸入を一時的停止方針決定。 日本への影響も懸念。2015 年に日本が輸入した鶏肉のうちブラジル産は全体の 77%。捜査を受けた 21 工場のうち 1 工場からは日本への鶏肉の輸出実績がある。</li> <li>●3.13-3.21 台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生(H5N2 亜型)鶏 1 戸、地鶏 2 戸、あひる 5 戸 発生場所:彰化県, 台南市, 屏東県, 雲林県, 嘉義県の農場 8 件(鶏 1 件, 地鶏 2 件, あひる 5 件)</li> </ul>
2017.3.18		<ul style="list-style-type: none"> <li>●米国 ケンタッキー州 肉用種鶏農場 低病原性鳥インフルエンザ(H7N9 亜型)の発生確認</li> <li>●3.8-3.18 台湾 HPAI(H5N2) 彰化県, 雲林県, 高雄市, 屏東県の農場 10 件(鶏 1 件, 地鶏 7 件, あひる 2 件)</li> </ul>
2017.3.15		<ul style="list-style-type: none"> <li>●米国 アラバマ州 商用種鶏農場および裏庭養鶏農家 低病原性鳥インフルエンザ(H7 亜型)発生</li> </ul>
2017.3.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農水省 6カ国語ポスター家畜衛生指導 海外実習生向け 目的 畜産農場で家畜・家きんの飼養技術を学ぶ外国人向けに日本の衛生的な飼養管理技術を周知 日本語や英語以外に、実習生の母国語でポスターを作成、講習開催 家畜飼養衛生管理基準のポスター(日本語, 英語, タイ語, ベトナム語, 中国語, 韓国語) ※農場の HACCP 取得には、全従業員が農場の衛生管理方針を理解していることが条件</li> </ul>	
2017.3.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 結城市における「PED 特別防疫対策地域」の指定解除 平成 29 年 1 月に結城市において、1 週間以内に複数農場で PED の発生が確認されたことから、感染拡大を防ぐため、1 月</li> </ul>	

	<p>11日に結城市一部地域(結城市のうち大字結城を除く地域)を「PED 特別防疫対策地域」に指定したが、1月17日以降、結城市でPEDの発生は確認されていない。加えて、発生農場ではPEDが沈静化して一定期間を経過したことから、指定地域内での感染拡大のリスクは減少したと考えられる。これらを踏まえ、結城市における「PED 特別防疫対策地域」の指定を3月13日付けで解除した。</p> <p>～特別防疫対策地域とは～</p> <p>県が、PED 防疫マニュアルに基づき、早期発見や消毒等の地域全体の防疫対応を強化するため、必要に応じて、本病の侵入・拡大リスクが高まった地域を指定する。</p> <p>●農水省 動物検疫所 中国の生肉から高病原性鳥インフルエンザ検出</p> <p>中国からの渡航者が日本に持ち込もうとして没収された鳥肉から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されていた(農林水産省動物検疫所と北海道大学調査)。</p> <p>2015年6月～2017今年2月に羽田空港など全国9カ所の空港や港で渡航者の荷物から没収されたニワトリやアヒルの肉や卵など228検体を調べた結果、中国の上海、アモイ、香港から成田、中部の各空港に持ち込まれたニワトリとアヒルの生肉3点から、高病原性鳥インフルエンザのH5N1型とH5N6型のウイルスが見つかった。遺伝子解析により、これらのウイルスは中国で流行するウイルスと近縁であることがわかった。</p> <p>また、中国や台湾、ベトナムから成田、羽田、関西、中部の4空港に持ち込まれたニワトリやアヒルの生肉9点からも低病原性のウイルスが検出された。</p>	
2017.3.9	<p>●静岡県 豚流行性下痢(PED)疑い F市 飼養頭数 1,100頭 症状 下痢 発症頭数 哺乳豚 80頭 死亡頭数 哺乳豚 3頭</p>	
2017.3.8	<p>●岩手県 死亡野鳥 高病原性鳥インフルエンザ確定検査陽性 ・オオハクチョウ1羽(1羽回収) ・検出状況:高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型) 国内の野鳥等における確定検査陽性の確認件数は、22都道府県 218件</p>	
2017.3.6		<p>●2.2-3.6 ロシア 高病原性鳥インフルエンザ H5N8 亜型 鶏農場 1 戸、家きん農場 5 戸</p> <p>●2.2-3.6 台湾 高病原性鳥インフルエンザ H5N8 亜型 嘉義県、台南市、屏東県、雲林県、高雄市の農場 7 件(鶏 1 件、地鶏 1 件、七面鳥 1 件、あひる 4 件)</p> <p>●2.2-3.6 台湾 高病原性鳥インフルエンザ H5N2 亜型 雲林県、彰化県、宜蘭県、台南市、屏東県の農場 22 件(地鶏 10 件、あひる 8 件、がちょう 4 件)</p> <p>●米国 養鶏場 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H7 型)検出 テネシー州 米食肉加工大手タイソン・フーズ契約養鶏場(ブロイラー種鶏)約 7 万 3500 羽殺処分 米国で検出されたのは 2015 年以來 ・ウィスコンシン州 七面鳥農場 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生</p>



2017.3.3		●中国 高病原性鳥インフルエンザ H5N6 亜型 あひる農場 1 戸
2017.3.1	●茨城県 17 例目 PED 発生 桜川市 飼養頭数:約 700 頭 症状:肥育豚の下痢	●2.14-3.1 モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 ヘンティール県の農場 2 件(牛)
2017.2.28	●茨城県 16 例目 PED 発生 古河市 飼養頭数:約 1,000 頭 症状:哺乳豚の下痢・おう吐, 繁殖豚の食欲不振・下痢	
2017.2.26		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ H5N6 亜型 花蓮県 農場 1 件(あひる)
2017.2.25		●2.15-2.25 台湾 鳥フル(H5N2) 地鶏農場 16 戸、あひる農場 4 戸、がちょう農場 1 戸
2017.2.24		●中国 鳥インフル対策強化指示 ヒトへの感染急増 中国で H7N9 型の鳥インフルエンザウイルスに感染する人が急増 鳥の飼育場の検疫や医療体制の強化、正確な情報公開徹底。 2017 年 1 月、南部や東部を中心に 192 人が、H7N9 の鳥インフルエンザウイルスに感染し、79 人が死亡。
2017.2.23	●茨城県 15 例目 PED 発生 下妻市 飼養頭数:約 420 頭 症状:繁殖豚の下痢・食欲不振	
2017.2.22		●台湾 鳥フル(H5N8) あひる農場 2 戸
2017.2.20	●茨城県 13 例目 PED 発生 石岡市 飼養頭数:約 800 頭 症状:繁殖豚のおう吐・下痢 ●茨城県 14 例目 PED 発生 下妻市 飼養頭数:約 8,000 頭 症状:哺乳豚の下痢・おう吐, 繁殖豚の食欲不振・下痢 ●栃木県 死亡野鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザ確定検査陽性(2/28) オシドリ1羽(回収)高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)を検出	
2017.2.18		●2.14-2.18 台湾 鳥フル(H5N6) 種鶏場 1 戸、あひる農場 2 戸
2017.2.17		●台湾 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 型)流行。 2/17 から1週間、台湾全土でニワトリやカモなど家禽類の移動禁止措置。
2017.2.16	●茨城県 12 例目 PED 発生 下妻市 飼養頭数:約 1,025 頭 症状:哺乳豚の下痢・おう吐 ●宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生 綾町 養豚農場(一貫経営)豚流行性下痢(PED)発生確認。 2016 年 11 月以降、県内で 4 例目	
2017.2.15	●宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生 綾町 養豚農場(一貫経営)豚流行性下痢(PED)発生確認。 2016 年 11 月以降、県内で 4 例目	●中国 鳥インフルエンザで 2017 年 1 月 79 人死亡 中国全土 H7N9 型の鳥インフルエンザの感染者が 192 人確認され、79 人が死亡したと発表。 江蘇省 1 月に 49 人感染、21 人死亡 上海市 2 月 10 日 58 歳男性感染確認

		2016年12月以降、H7N9型鳥インフルエンザのヒトへの感染拡大
2017.2.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2015年度 鳥獣被害 176 億円 農水省発表 被害金額 鹿 60 億円、イノシシ 51 億円、猿 11 億円</li> </ul>	
2017.2.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岩手県 死亡野鳥 高病原性鳥インフルエンザ陽性オオハクチョウ1羽(1羽回収) 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)検出</li> <li>●宮崎県 カモの数 2月中旬 今季最多 県内4箇所(一ツ瀬川、大淀川、五ヶ瀬川、巨田池)で実施している、渡り鳥の飛来状況調査の結果、カモの数が、2月中旬に8,924羽で今季最多となり、また、過去2年間の同時期と比較しても最多となった。 (<a href="#">県自然環境課リンク</a>)</li> </ul>	●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道報恩郡の牛農場3件
2017.2.12		●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道報恩郡の牛農場1件
2017.2.11		●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道報恩郡の牛農場1件
2017.2.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 下妻市を PED 特別防疫対策地域に指定 下妻市において、1週間以内に複数農場で PED の発生が確認されたことから、2月10日付けで下妻市一部地域(国道125号線以北)を「PED 特別防疫対策地域」に指定した。</li> </ul>	
2017.2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 11 例目 PED 発生 石岡市 飼養頭数:約 100 頭 症状:繁殖豚のおう吐, 肥育豚の下痢</li> <li>●茨城県 10 例目 PED 発生 下妻市 飼養頭数:約 730 頭 症状:哺乳豚の下痢・おう吐</li> <li>●捕獲野生獣 広域で焼却 処理の悩み解決 田畑を荒らす野生動物は地域資源として野生鳥獣の肉(ジビエ)で流通させるのが理想だが、加工施設が遠い、捕獲後すぐに食肉処理ができないなど、鮮度が保てない場合は土を掘って埋める重労働を余儀なくされる。追い払いや柵の設置など鳥獣害対策は近隣自治体と協力する地域が増えており、捕獲後の“出口対策”でも有害鳥獣専用の焼却処理施設を稼働させるなど自治体の垣根を越えた連携が広がっている。</li> <li>●よこはま動物園ズーラシア等 鳥フル対策 鳥類の展示中止 よこはま動物園ズーラシアなど横浜市内の動物園4施設は、鳥フル対策として、9日から鳥類全般の展示を中止(当面の間)。7日に東京都足立区で鳥フルに感染した鳥の死骸が見つかったことを受けた感染防止策。鳥類以外の展示は継続し、入退園時の靴底の消毒や園内に入る車両の消毒といった予防策も引き続き実施。</li> </ul>	
2017.2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県 コウノトリ飼育施設 臨時休館 鳥フル感染予防 東京都足立区 鳥フル疑いオナガガモの発見を受けて、千葉県野田市が運営するコウノトリの飼育施設「こうのとり」は、感染予防のため、施設で定めた鳥インフルエンザの対応マニュアルにのっとり、8日から臨時休館。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道報恩郡の牛農場1件 全国家畜市場を全面閉鎖 農林畜産食品省 口蹄疫の発生を受けて、全国86カ所ある家畜市場を18日まで全面閉鎖。4段階ある警報段階を最高の「深刻」に引き上げ。韓国で最高度の警報が発令されたのは2010年以来。韓国では今月5日から3回にわたり、肉牛と乳牛に口蹄疫が発生。計800余頭が殺処分。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 口蹄疫(A型)発生 京畿道漣川郡乳牛飼養農場 韓国におけるA型の発生は2010年1月以来、6年ぶり。</li> </ul>
2017.2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京都 野生カモ 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)確認(2/17)</li> <li>足立区 死亡野生のオナガガモ 鳥フル疑い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(O型)発生 新疆ウイグル自治区、牛・羊飼養農場1戸</li> </ul>
2017.2.6		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 口蹄疫(O型)発生 全羅北道井邑市韓牛飼養農場</li> </ul>
2017.2.5		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道報恩郡乳用牛飼養農場195頭</li> <li>韓国における本病の発生は、2016年3月の発生以来、約11ヶ月ぶり</li> <li>5頭の牛の乳頭で水疱確認、「血清型O型」口蹄疫確定</li> <li>同農場の牛全頭 殺処分 農場から半径3キロ以内の牛、豚、羊などの偶蹄類の99農場の約1万頭 移動制限</li> <li>地域の5万5000頭の偶蹄類に緊急予防接種予定</li> </ul>
2017.2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐賀県 養鶏場 高病原性鳥インフルエンザの疑似患者 H5N6亜型確認(2/6)</li> <li>・場所 佐賀県杵島郡江北町 1農家2農場</li> <li>・飼養羽数 約40,000羽(肉用種鶏)、約29,000羽(肉用種鶏)</li> </ul>	
2017.2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省庁横断で鳥獣対策 被害軽減へ会議設置</li> <li>農水や環境など8省庁で「鳥獣被害対策推進会議」を初めて設置。捕獲から食肉利用まで野生鳥獣への対応が多様化していることを踏まえ、省庁ごとの縦割りを改め、省庁横断による総合的な支援体制を強化する。施策の立案や情報共有に力を入れ、農作物被害の軽減を目指す。</li> <li>●宮城県 鳥獣被害抑止 鳥獣駆除専門ハンター採用</li> <li>2017年度 狩猟専門の職員(非常勤職員2人「鳥獣被害対策指導員」(仮称)予算案に関連経費1300万円)を採用。47都道府県初。2018年度以降も毎年2人ずつ採用予定。宮城県警のOB職員を採用する方針。</li> <li>クマ出没(東北)</li> <li>6200件超、2015年度の2倍</li> <li>2015年度捕獲</li> <li>イノシシ 4964頭(2000年 2795頭増)</li> <li>ニホンジカ 1845頭(2000年 456頭増)</li> <li>農作物被害</li> <li>2012年度以降1億円超</li> <li>2014年度 2億円超</li> <li>2015年度 1億3869万円</li> <li>県猟友会会員数</li> <li>2005年度 2218人</li> <li>2015年度 1508人(うち約3割の411人が70歳以上)</li> <li>●鳥取大 動物の鶏舎内への侵入確認</li> <li>概要</li> <li>調査時期：2012～16年の冬季 2週間程度</li> <li>調査場所：国内14カ所の養鶏場の、鶏舎内、鶏舎と外部の接点、鶏舎周辺</li> <li>調査時間帯：夜</li> <li>撮影方法：赤外線カメラやワナを設置</li> <li>結果：鶏舎内でクマネズミやネコ、イタチなど小動物の侵入を18件確認</li> <li>動物が鶏舎周辺をうろつくケースが13件</li> </ul>	

	<p>密閉度の高い鶏舎でも、排水口や、糞や卵を集める装置と鶏舎の間など、2、3センチの隙間があればネズミなどが侵入しようとしている姿が撮影されていた。</p> <p>●茨城県 9 例目 PED 発生 下妻市 飼養頭数:約 2,500 頭 発生頭数:205 頭 症状:哺乳豚の下痢・おう吐, 繁殖豚の下痢・食欲不振</p>	
2017.2.2	<p>●国産農畜産物輸出額 牛肉 2016 年過去最高 財務省の貿易統計 牛肉の輸出額が 2016 年に過去最高を更新 2016 年の牛肉の輸出額は 135 億円と前年比 23%増、6 年連続で最高記録を塗り替え 香港向けは 40 億円で 33%増 米国向けは 21 億円で 24%増 ●環境省 東山動物園周辺の監視重点区域指定を解除(2016 年 12 月 6 日に指定)</p>	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ H5N6 及び H5N2 花蓮県玉里鎮 ガチョウ、アヒル
2017.1.30	●石川県 野鳥 鳥フル疑い 加賀市内 野鳥のヒシクイ1羽の死骸から鳥インフルエンザウイルスの陽性反応(簡易検査)	
2017.1.29	●鹿児島県 豚流行性下痢 (PED) 発生 志布志市(旧志布志町)の1農場で豚流行性下痢 (PED) の発生確認。 【H28 年9月以降の発生状況】 ・志布志市(旧志布志町)1農場 ・鹿屋市吾平町 1(1)農場 計 2(1)農場 ※ () 内は、非発生農場扱いとなった農場数	●1.24-1.29 モンゴル 口蹄疫(O 型)発生 スフバートル県の農場 2 件(牛, 山羊, 羊)ドルノド県の農場 1 件(牛) (参考)モンゴルにおける過去の発生状況: 2016 年 7 月 16 日に 1 件(牛, A 型)発生
2017.1.24	<p>●茨城県 コクチョウ1羽 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6)</p> <p>●農水省動物検疫所羽田空港 畜産物の不正持ち込み増 2105 年に全国の輸入検疫で放棄・返送された畜産物は 8 万件を超え、1000 トンに及んだ。2015 年 6 月から 2016 年 3 月にかけて 9/149 検体から鳥インフルエンザウイルスなどが検出。中には、H5N6 亜型もあった。</p> <p>●宮崎県 鶏 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/26) 児湯郡木城町 肉用鶏飼養農場(約 168,400 羽) 死亡鶏 130 羽が発見され、遺伝子検査で 4 羽から「H5 型」の鳥インフルエンザウイルスが検出された。</p> <p>●兵庫県 養鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6) ・コブハクチョウ(飼育下) 1 羽</p>	<p>●韓国 鳥フル 埋却地 28%で土壌・地下水汚染の恐れ 鳥フルで 1 万羽以上のカモ・鶏が処分された埋却地のうち、28%で管理が不十分 各地の埋却地 434 カ所のうち 1 万羽以上の一般埋却地 74 カ所、5 万羽以上の一般埋却地 95 カ所の計 169 カ所を点検した結果、48 カ所計 62 項目の管理不行き届き事項が確認された。 今回の合同点検の結果、 ①地下水が汚染されているかどうか観察できる観測井を設置していない埋却地が 23 カ所と最も多かった。 このほか、 ▲上部が沈下した埋却地 10 カ所 ▲排水路不十分 10 カ所 ▲上部湧出水の処理不十分 5 カ所 ▲ガス排出管未設置の埋却地 4 カ所 などが確認された。 今回の埋却対策変更点 ▲動物の死骸を繊維強化プラスチック (FRP) の密閉型貯蔵槽に入れて埋める方式 ▲微生物によって分解されるもみ殻に死骸を埋める方式を追加導入した。</p> <p>●WHO 警戒呼びかけ 鳥フル 約 40 か国で新たに報告 養鶏場などでの鳥インフルエンザウイルスの感染拡大が 2015 年 11 月以降、世界の 40 近くの国で新たに報告されていることから警戒を徹底するよう呼びかけ。 アジアの養鶏場などから感染の報告が相次</p>

		<p>いでいる H5N6 型のウイルスのなかには、これまで確認されたものとは遺伝情報が一部、異なるウイルスもあった。</p> <p>また、中国では 2013 年以降、H7N9 型の鳥インフルエンザウイルスに感染する人が相次いで報告されて、これまでに 1000 人以上の感染が確認された。なかには、限定的ながらヒトからヒトへの感染が否定できないケースもあった。</p>
2017.1.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道 オオハクチョウ1羽 簡易検査 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29) 厚岸町</li> <li>●茨城県 コクチョウ1羽 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1.6-1/22 台湾 高病原性鳥インフルエンザ発生 H5N2 雲林県台西郷の農場(鶏) 雲林県元長郷の農場(地鶏) 雲林県麦寮郷の農場(地鶏) 宜蘭県礁溪郷の農場(あひる) 雲林県崙背郷の農場(地鶏) 雲林県褒忠郷の農場(地鶏) 雲林県四湖郷の農場(七面鳥)</li> <li>●韓国 鳥フル止まらないため鶏卵を緊急輸入 無関税 10 万トン 鶏卵の緊急輸入。2017 年 6 月まで 10 万トン近くを無関税で輸入する。春節(旧正月)で製菓などの需要が高まり、初めての殻付き卵の輸入。鳥フルで採卵鶏の 3 割が殺処分対象。</li> </ul>
2017.1.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 コクチョウ1羽 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6)</li> </ul>	
2017.1.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 コクチョウ1羽 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6)</li> </ul>	
2017.1.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道 オオハクチョウ1羽 簡易検査 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29) 厚岸町</li> <li>●兵庫県 野鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6) ・ユリカモメ 1 羽</li> <li>●兵庫県 飼養鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29) ・コブハクチョウ(飼育下)4 羽</li> </ul>	
2017.1.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 8 例目 PED 発生 結城市 飼養頭数:約 660 頭 発生頭数:66 頭 症状:哺乳豚の下痢, 繁殖豚の下痢・食欲不振</li> <li>●兵庫県 飼養鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/2) ・コブハクチョウ(飼育下)4 羽</li> </ul>	
2017.1.16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岩手県 野鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/6) ・オオハクチョウ 1 羽</li> <li>●兵庫県 飼養鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(2/2) ・コブハクチョウ(飼育下)4 羽</li> </ul>	
2017.1.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県 ヒンケイから鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> <li>●北海道 オオハクチョウ1羽 簡易検査 鳥フル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29) 厚岸町 衰弱した野鳥のオオハクチョウ1羽を回収し、簡易検査で鳥インフルエンザの陽性反応が出た。オオハクチョウは凍った川の氷上で発見された。</li> </ul>	



	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 飼養鳥 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> <li>・コブハクチョウ(飼育下) 1羽</li> </ul>	
2017.1.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 公園飼育コブハクチョウから鳥インフル陽性反応 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> </ul> <p>伊丹市の昆陽池公園で飼育されていたコブハクチョウ 2羽の死骸 簡易検査で鳥インフルエンザウイルス陽性反応。 池で、伊丹市がコブハクチョウ 25羽を飼育しており、うち3羽で陽性反応が出た。新たな2羽は、13日夜と14日午前に相次いで死亡した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●栃木県 野鳥死骸から鳥フル疑い</li> </ul> <p>大田原市羽田 オオハクチョウ 1羽死骸 鳥インフルエンザウイルス検出</p>	
2017.1.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栃木県 野鳥死骸から鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> </ul> <p>大田原市羽田 オオハクチョウ 1羽死骸 鳥インフルエンザウイルス検出</p>	
2017.1.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新潟県 オオハクチョウから鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> <li>●大分県 野鳥死骸 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型, 1/27)</li> </ul> <p>宇佐市 回収した野鳥「ノスリ」死骸から鳥インフルエンザウイルス検出 大分県内で高病原性の感染が確認されたのは2011年2月以来。</p>	
2017.1.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 結城市を PED 特別防疫対策地域指定</li> </ul> <p>結城市において、1週間以内に複数農場で PED の発生が確認されたことから、1月11日付けで結城市一部地域(大字結城を除く)を「PED 特別防疫対策地域」に指定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 7日 PED 発生</li> </ul> <p>下妻市 飼養頭数:約1,230頭 発生頭数:96頭 症状:哺乳豚の下痢、繁殖豚の下痢・おう吐・食欲不振 <ul style="list-style-type: none"> <li>●愛知県 ホシハジロから鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> <li>●茨城県 オオハクチョウから鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型) 検出(1/29)</li> <li>●茨城県 PED 特別防疫対策地域の指定について</li> </ul> <p>12月以降、結城市 結城市で PED PED の継続発生があったことから、農林水産省と協議のうえ、「PED 防疫マニュアル」に基づき、結城市一部地域を「特別防疫対策地域*」として指定。特別防疫対策地域における対応(対象農場 42戸)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 農場及び周辺の緊急消毒を実施するなど感染拡大防止対策実施</li> <li>2 指定地域内の養豚場から週に一度死亡頭数を報告するよう指導するなど監視体制を強化。</li> <li>3 指定地域内の農場に対し、PED 対策強化及び発生時の対応についてのリーフレットを配布し、農場における対策強化。</li> </ol> <p>* 特別防疫対策地域 都道府県は、早期発見や消毒等々の地域全体防疫対応を強化するため、本病の侵入・拡大リスクが高まった地域を必要に応じて「特別防疫対策地域」に指定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 豚流行性下痢(PED) &lt; 7例目 &gt;</li> </ul> <p>発生農長:1農場 飼養頭数:約1,230頭 発生頭数:ほ乳豚 70頭・繁殖豚 26頭 症状:ほ乳豚の下痢・繁殖豚の下痢、嘔吐、食欲不振</p> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 高病原性鳥インフルエンザ H5N6 亜型 湖南省益陽市、がちょう飼養農場 1戸</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岐阜県 鶏 鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザ H5N6(1/16 確定)</li> <li>山県市 鶏飼養農場 高病原性鳥インフルエンザの疑い事例確認。</li> <li>採卵鶏飼養農場 8万羽</li> <li>8am 飼養鶏に異常(死亡鶏 100羽)が認められると通報、簡易検査で7羽中6羽が陽性</li> <li>●島根県 野鳥 鳥インフル疑い</li> <li>浜田市 野鳥の川で同発見された野鳥ホシハジロ 1羽の死骸 鳥インフルエンザウイルスの陽性反応。確定検査中。</li> </ul>	
2017.1.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 豚流行性下痢(PED)&lt;6例目&gt;</li> <li>発生農長:1農場</li> <li>飼養頭数:約280頭</li> <li>発生頭数:ほ乳豚12頭・繁殖豚9頭</li> <li>症状:ほ乳豚の下痢・繁殖豚の下痢、食欲不振</li> <li>●茨城県 豚流行性下痢(PED)&lt;5例目目&gt;</li> <li>&lt;5例目&gt;</li> <li>発生農長:1農場</li> <li>飼養頭数:約1,700頭</li> <li>発生頭数:ほ乳豚80頭・繁殖豚10頭</li> <li>症状:ほ乳豚の下痢・繁殖豚の食欲不振</li> <li>●滋賀県 野鳥から鳥フル疑い</li> <li>草津市内 野鳥オオバン1羽の死骸から鳥インフルエンザウイルス陽性反応。</li> <li>確定検査中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 高病原性鳥インフルエンザ発生(H7N9) 広東省の生鳥市場(家きん)</li> </ul>
2017.1.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●山口県 野鳥 鳥インフル疑い→高病原性鳥インフルエンザ H5N6(1/17 確定)</li> <li>山口市 ホシハジロ 1羽の死骸 鳥インフルエンザウイルス陽性</li> <li>確定検査中。</li> <li>回収場所から半径3キロ以内に養鶏場はない。</li> </ul>	
2017.1.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●茨城県 豚流行性下痢(PED)&lt;4例目&gt;</li> <li>発生農長:1農場</li> <li>飼養頭数:約550頭</li> <li>発生頭数:離乳豚40頭・ほ乳豚70頭</li> <li>症状:下痢・嘔吐</li> </ul>	
2017.1.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛知県 スズガモから鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)検出(1/29)</li> </ul>	
2017.1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生(今季3例目)</li> <li>日南市 養豚農場(肥育)</li> <li>●岩手県 ハクチョウ類1羽 鳥インフル陽性</li> <li>高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)(1/17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(O型)発生 新疆ウイグル自治区ホータン地区グマ県 牛飼養農場1戸</li> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ H5N2 亜型 雲林県麦寮郷、地鶏飼養農場1戸</li> <li>●ロシア 高病原性鳥インフルエンザ発生 H5 クラスノダール地方1件(コブハクチョウ)</li> </ul>
2017.1.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●滋賀県 オオバンから鳥フル疑い 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)検出(1/29)</li> <li>●茨城県 コクチョウ1羽 鳥インフル陽性</li> <li>高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)(1/17)</li> <li>●愛知県 野鳥ホシハジロ死骸 鳥インフル陽性</li> <li>高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)(1/17)</li> <li>西尾市海岸で死亡していた野鳥のホシハジロ 1羽を簡易検査したところ、鳥インフルエンザの陽性反応が出た。今後、確定検査実施する。愛知県内で野鳥から陽性反応は3日の豊橋市に続き2例目。</li> </ul>	

2017.1.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛知県 野生のカモ死骸 A型鳥インフルエンザウイルス陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)(1/17) 豊橋市 回収された野生のヒドリガモ1羽(オス)の死骸から、簡易検査でA型鳥インフルエンザウイルスの陽性反応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ロシア HPAI 発生 H5 ヴォロネジ州の動物園(コブハクチョウ, シュバシコウ, ヨウム, フクロウ)</li> </ul>
2017.1.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道 野生の白鳥 鳥インフル陽性 七飯町の大沼国定公園近くの路上で衰弱した状態で発見(12月28日)された死亡した野鳥のオオハクチョウ1羽を遺伝子検査した結果、鳥インフルエンザの陽性反応。 簡易検査で陰性反応 遺伝子検査で陽性反応 オオハクチョウが見つかった場所の近くで2日発見されたマガモ1羽の死骸の簡易検査で陰性反応、遺伝子検査中。</li> </ul>	
2017.1.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新潟県 ハヤブサ1羽 鳥インフル陽性 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)(1/17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ロシア 高病原性鳥インフルエンザ発生 H5 クラスノダール地方 1 件(コブハクチョウ)</li> <li>●中国 高病原性鳥インフルエンザ H5N8 湖北省武漢市の動物園(コクチョウ)</li> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ H5N8 亜型 雲林県斗南鎮 地鶏飼養農場 1 戸</li> </ul>